

令和4年度 明石市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

認知症サポーターの養成

認知症カフェ等への取り組みの支援

認知症・若年性認知症家族会への支援

認知症初期集中支援事業の実施

市の認知症施策への協力

など

報告者氏名： 市町村担当者 中谷 希実

地域支援推進員 川床由季・木ノ下久子

【明石市】認知症施策全体図

認知症の理解啓発・
地域支援体制の充実

- ・ 認知症あんしんまちづくり条例
- ・ あかしオレンジサポーター制度
- ・ 明石市認知症あんしんネットワーク会議
- ・ 認知症ケアパスの活用

早期の気づき・
早期支援の推進

- ・ 認知症早期支援事業
- ・ 初期集中支援事業
- ・ 精神保健相談
- ・ 認知症相談ダイヤル

権利擁護・
在宅生活の支援

- ・ 認知症あんしんプロジェクト
- ・ 診断費用の完全無料化
- ・ 認知症サポート給付金の支給
- ・ あかしオレンジ手帳とあんしんチケットの配付

若年性認知症施策の
推進

- ・ 若年性認知症ケアパスの作成等、若年性認知症の周知啓発
- ・ 若年性認知症家族会等への支援

地域共生社会実現にむけた取組

認知症家族会への支援



認知症家族会
色々な思いを話ませんか？

「よう話してくれたなあ」
「ほんまに精神的にきつかったわ」

あった会
対象 家族と本人
日時 第2金曜日 13:30~15:30
場所 主にアスピア北館8階
問合せ先 明石市高齢者総合支援室 078-918-5288

介護ボランティアたんぼぼ
対象 家族と本人
(本人は和室でゆっくり過ごすことができる)
日時 毎週木曜日 10:00~15:00
場所 明石市総合福祉センター 3階
申込先 明石市社会福祉協議会 078-924-9105

男性介護者のかたり場
対象 本人と男性介護者
(本人は和室でゆっくり過ごすことができる)
日時 不定期
場所 不定
申込先 明石市社会福祉協議会 078-924-9105

若年性認知症家族会 ひまわり
対象 若年性認知症の本人と家族
日時 第1火曜日 10:30~12:00
場所 アスピア北館8階
申込先 認知症相談ダイヤル 078-926-2200

ひまわりケアサロン
対象 若年性認知症の本人と家族
日時 第4土曜日 10:00~12:00
場所 明石市総合福祉センター(新館)
申込先 認知症相談ダイヤル 078-926-2200

みんなで支えたい

背景画:認知症の方のご家族R.Cさん作
作成:明石市社会福祉協議会 地域総合支援センター本館

開催状況は、新型コロナウイルス感染状況等
で変更となりますので、最新の開催状況を申込時
などにご確認下さいようお願いいたします。

< 男性介護者のかたり場 > (不定期開催)

男性特有の悩みを打ち明けたり介護方法を学ぶ場。開催に向け企画・運営や啓発活動を行った。男性同士の会話が弾み、定期開催を望む声が多数あった。今後は地域の専門職や住民、ご家族が主体的に企画・参加できるセルフヘルプグループ化を目指す。

< 認知症家族会の啓発ポスターの作成 >

背景は認知症のご家族に協力を得て、家族会情報の一覧ポスターを作成した。ケアマネジャーなどの専門職や広く市民に啓発。啓発により、家族会参加者が増加し、家族会の情報を把握しやすくなったという意見があった。

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

<明石市の現状> ※R5年3月末時点

認知症サポーターとキャラバン・メイト数 **21,465人 (7位/県)**

認知症サポーターとキャラバン・メイト 1人当たり相当高齢者人口

3.7人 (県下ワースト4位タイ)

★R4年3月末時点ではワースト3位

- ◆認知症サポーター養成講座で使用するパワーポイントの標準教材や、開催手順確認シート等を行政と協力して作成
- ◆行政が行うキャラバン・メイト養成研修に講師として協力
- ◆キャラバン・メイト、認知症カフェ代表者、シルバーサポーター（明石市独自の認知症ステップアップ講座受講者）と意見交換、交流の場として「オレンジ交流会」を行政と企画、開催。

効果

- ・効率よく養成講座の開催ができるようになった。
- ・キャラバン・メイトが自立して活動しやすい体制づくりができた。

課題

- ・キャラバン・メイト同士のネットワークづくりを行政とともにやる。
- ・キャラバン・メイトの希望と講座のマッチングを効率よく行う方法を行政と検討する。

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症の人本人の社会参加・発信への支援 (あかしオレンジピアサポーター制度)

認知症へのネガティブなイメージを払拭し、
認知症と診断されても自分らしく暮らすため、
認知症の方がいきいきと暮らす姿を発信するという取り組み



- ◆行政と共に制度設計
- ◆本人の希望や思いを聞き取り、ピアサポーター同士が会いたいという思いを実現するため、本人ミーティングを開催。
- ◆当日はピアサポーター同士が楽しく談笑し、ピアサポーターとしてやってみたいことを話した。

効果

- ・当事者同士の希望を叶えることができた。
- ・本人発信の目的や重要性を地域包括支援センター職員に伝えることができた。

課題

- ・ピアサポーターの活動を広く啓発
- ・ピアサポーターとともに当事者向けケアパスの作成

最後に・・・

**悩みを抱える方が孤立しないようなまちづくりや
認知症と診断されても希望をもって生活し
助け合いながら自分らしく暮らせるまちづくりを
認知症地域推進員として進めていきたい**